

石木ダムで衆院選立候補予定者

行政代執行 6人反対

反対派7団体がアンケート

県と佐世保市が東彼川棚町に計画する石木ダム建設事業に反対する県内の市民7団体は11日、31日投票票の衆院選に立候補を予定する11人に依頼したアンケート結果を公表した。11人中7人が回答し、水没予定地に暮らす反対住民13世帯の家屋を強制撤去する行政代執行については6人が反対、1人は無回答だった。

石木川まもり隊（松本美智恵代表）などが先月、共同で実施。11日に県庁で会見した。松本代表は狙いについて「半世紀にわたる県の重要課題だが選挙では争

点になっていない。国政レベルで考えるべきで、候補者の考えを浮き彫りにしたかった」と説明した。

選択形式の設問11項目と自由記述。建設の賛否を問う設問はない。川棚川水系の優先すべき水害対策については、長崎4区の現職だけが「石木ダム建設」と回答した。自由記述では、市民の2人が「行政が法に基づいて必要な措置を講じていくもの」などと推進の立場を示した。立民の3人は「公共性の再検証が必要」など、共産の1人は「人権の問題」と書いた。

アンケート結果は石木川まもり隊のホームページに掲載する。（副島宏城）

長崎でシール投票
「ダム不要」8割超

県と佐世保市が東彼川棚町に計画する石木ダム建設事業を巡り、反対派団体「石木川の清流とホテルを守る市民の会」は10日、長崎市中心部のアーケードで事業

の是非を問うシール投票をした。ダムが不要と答えた人が8割以上を占めた。

通行人らに▽必要▽不要▽どちらともいえないの3択を問い、ボードにシールを貼る形式。午後2時から約1時間半で175人が投票した。結果は「必要」8、「不要」154、「どちらともいえない」13。

「不要」に投票した10代男子高校生「長崎市にはダムを造るお金があるなら、観光など長崎に人が入るものを作った方が長崎のためになるのでは」。「どちらともいえない」に投票した70代無職女性「同じくは



「長崎市は水が不足していないのでピンとこない。簡単に反対と言えない」と話した。シール投票は昨年始め6回目。（酒井環）

の重要課題だが選挙では争

の問題」と書いた。

石木ダム建設事業の是非を問うシール投票に参加する通行人。長崎市内